

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493000119	事業の開始年月日	平成21年10月1日
		指定年月日	平成21年10月1日
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター大和桜森		
所在地	(〒 242-0028) 神奈川県大和市桜森2-26-4		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日	平成25年9月18日	評価結果 市町村受理日	平成25年11月29日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりの生活歴、趣味、嗜好を尊重し自立に向けた支援と、事故なく安心・安全で笑顔の絶えないホームを目指しております。
カラオケや大正琴ボランティアなどの外部からの支援も活用し、習字、華道などのスタッフの得意な趣味も取り入れ、スタッフも楽しみながら身体機能面・精神面からもアプローチしております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年10月9日	評価機関 評価決定日	平成25年11月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】
当事業所は相鉄線相模大野駅から徒歩5分の距離にある。駅への利便性が高く幹線道路脇から横に入った住宅街にあり、車の往来が少なく安全性が高い。ホームの前面には緑の広場、横には野菜栽培やガーデニングが楽しめる庭がある。周辺に遮るものが少なく鉄骨造り2階建てで日当たり良好である。運営法人の経営理念と事業所理念を周知徹底し、業務の礎とし実践している。利用者とスタッフが和気あいあいとして仲良く食事づくりや各種の活動に参加し、穏やかな笑顔が見られる。

【委員会活動で事業推進を図っている】
9つの委員会を形成し職員はいずれかの委員として活動を行っている。責任を持って資料集めや学習をし、ホーム会議で発表し、業務の推進を図っている。ケア委員会では、認知症介護の具体的な対応方法について発表し、スタッフのスキルの標準化及びレベルアップを図っている。リスクマネジメント委員会ではヒヤリハットの事例検討を行い、苦情解決制度やコンプライアンス等について周知を図っている。身体拘束委員会では身体拘束や虐待について、感染症委員会ではノロウイルス対策、大和桜森便り委員会では家族に向けて利用者の日常を伝える便りを書いている。他に花壇草むしり委員会、写真委員会、献立委員会、防災委員会があり、それぞれに創意工夫し取り組んでいる。事業所全体の運営に職員が委員会活動を通じて主体的に関わり、モチベーションを高めている。

【多くの活動や行事で日々の生活を楽しんでいる】
介護タクシーを使い水族館やお花見、お祭りに参加したり、月1回の外食では好きな回転すしやラーメン、インドカレーなど近隣のレストランに行き、なじみの関係を築いている。ホームでは餃子パーティーや松茸パーティー、七夕、クリスマス会、誕生会等のイベントを楽しんでいる。ボランティアによる大正琴の演奏やカラオケ教室、職員によるフラワーアレンジメントや習字指導、利用者による裁縫や植物栽培指導など互いに知恵や経験を出し合い生活を充実させている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター大和桜森
ユニット名	桜の郷

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念をユニットの目の入る場所に設置している。	理念は「安心・安全・微笑みを」と簡潔で分かり易い言葉にし、ホーム内各所に掲示している。日常の業務では、防災、設備、転倒事故等の安全面、接遇や言葉づかい、見守り・気配り等に留意し利用者が安心して過ごせるよう最大の努力を払っている。職員・利用者が仲良く和気あいあいで、明るく微笑みの絶えないホームにしている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや、地域のボランティア、散歩等で近所との交流を図っている。	桜森自治会に今年度加入した。今年は雨で参加が出来なかったが、桜森祭りやゴミ拾い祭りに例年参加している。清掃活動も自主的に行い、散歩時には近隣住民宅や交番、商店に立ち寄りなど交流を図っている。大正琴やカラオケのボランティアが来訪している。児童との交流はない。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に一度開放し近隣の方に見学を対応している。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催していない。	昨年の6月に開催して以来会議を開いていない。開催しても地域の役員や行政関係者の出席者が少なく、どのように取り組むべきか模索している。先月2回、駅周辺の商店やコンビニなどにチラシを配り、ホームを地域に知ってもらおうという試みから見学会を行ったが、家族のみの参加であった。	今年から町内会に加入したことを契機に町内会長や民生委員、すでに関わりのある市や地域包括支援センター等に積極的に働きかけ運営推進会議を開催することが急務です。事業所の活動を外部に知らせ、情報や助言、提言をもらい事業運営に反映させ、地域との連携を図ることを期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に一度GH連絡会にて参加交流している。月に二回メールにて空き状況を担当者に報告している。	介護保険課に毎月2回空き状況の報告をしている。市開催の事業所管理者会議では介護保険制度の改正内容や苦情等の報告があり、運営の参考にしている。地域包括支援センターには毎月行き、活動報告や相談、地域情報を得ている。市グループホーム連絡会に参加し、市情報や情報交換、職員向け介護技術講習の企画等について話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム会議にて研修を行いサービスの向上をはかっている。	身体拘束委員会があり、3名の委員が身体拘束や虐待について学習し、ホーム会議で発表し全職員に周知確認を行っている。玄関、フロアの入り口、各居室の施錠は夜間を除きしていない。現在徘徊する方はいないが、散歩の際には交番に立ち寄り、利用者も挨拶を交わし、顔見知りとなっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議にて研修を行いサービスの向上をはかっている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議にて研修を行いサービスの向上をはかっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	読み合わせをして疑問点のないよう説明を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置し利用者の意見を反映している。	多くの家族が頻繁に来訪している。その際には車椅子や福祉用の車購入の相談があったり、要望や意見を聞いている。遠距離の方には電話で連絡している。意見箱を設置しているが投書はない。毎年家族会を3回開催し、活動状況の報告をしているが、今年はまだ実施していない。家族からは、ホーム前面の道路の舗装の要望が出ており、行政へ嘆願している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一ホーム会議とユニット会議を行っている。	ホーム会議、ユニット会議を定例的に開催し、要望や意見を聞いている。日常的に職員から管理者及びユニットリーダーに頻繁に提案や業務改善の話が持ち込まれている。決まり事やマニュアル等でより柔軟な動きが出来るようその場で改善されるケースが多い。年に2回賞与時期に管理者との面談があり、自己評価及び管理者評価を行い、本人の希望や要望を聞いている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適切な労働時間を個人面談にて決定している。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部外部の研修に積極的に参加することでスキルアップを図っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	2ヶ月に一度の大和市のGH管理者会議に出席している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員、ケアマネ、管理者それぞれの立場から相談事を伺っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的な家族会、家族参加のイベント時で意見交換し、個別にも相談している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを実施し、出来る限りご家族ご本人の不安を取り除く心がけをしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段のコミュニケーションに心がけ尊厳を守り支援している。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な家族会、家族参加のイベント時で意見交換し、個別にも相談している。 定期的な家族会、		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	穏やかな生活ができるよう制限なく来訪者を受け入れている。	友達や知人、世話になった方などの来訪や電話、手紙などを受け入れ、馴染みの人との関係継続の支援に努めている。入所前に所属していたカラオケの指導者がボランティアとして来訪してくれている。利用者が編み物を職員に教える機会を設けたり、家庭菜園を楽しむなど従来からの趣味を継続できるよう支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体を見ながら満遍なく介護に従事する事に注意している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの行事などに気軽に参加できるよう声かけをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	カンファレンスにて本人の意向、ご家族の意向をふまえ話し合っている。	入所前にアセスメントを行い、生活歴、交友・家族関係、本人の希望や意向の把握をしている。不安なく暮らしたい、健康でいたい、お金や小遣いはあるかなど日常の業務の中でも要望や意見を聞いている。意向把握の困難な方へは表情や行動から意向を汲み取ったり、家族から想いや希望を聞いている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴を各機関より聞き取る。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存能力、心身状態、健康状態等の情報を共有しサービスを提供している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期計画毎のモニタリング、カンファレンスし介護計画を作成している。	センター方式でアセスメントを行い、全職員が利用者の現状・課題、原因・説明、目標、具体的支援をモニタリングし、カンファレンスで検討している。医師の助言や利用者・家族の希望を聞き3か月に1回アセスメント、モニタリング、計画作成・見直しを行っている。入院の際など必要に応じて随時見直ししている。利用者・家族への同意・交付を行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録と職員の気付きにより計画の見直し実践に生かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活用していない。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と本人の了承を得て往診対応している。	ほぼ全員の利用者が月2回の協力病院の内科医の訪問診療を受けている。かかりつけ医の受診では原則家族が同行しており、家族から診療情報を聞いている。歯科医は毎週来訪し、診療や口腔ケアを行っている。訪問看護の看護師が週2回来所し、爪切りや便通、褥そう等の処置を行っている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の看護師、訪問看護師に24時間連絡できる体制である。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医と入院先医と密に連絡をとるための情報交換をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、往診医、看護師と話し合い決定している。	重度化対応や看取りに関する指針を示し、入所時に同意書を得ている。医療連携体制を整えており、利用者や家族の意向の基に重度化や終末期を迎える支援を行うこととしているが、現在実績はない。職員への研修は行っていない。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全員普通救命の講習をうけている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の避難訓練を実施している。	夜間対応訓練を含め年2回の防災訓練を行っている。消火、通報、避難訓練などの総合訓練で消防署員や家族の参加はあるが地域住民の参加はなく、地域との協力体制は今後の課題である。日常的には火器設備や器具の異常点検等を自主点検表でチェックしている。水・食料等3日分の備蓄があり、災害に備えて個々の利用者の衣類・オムツ一式をまとめて持ち出せるようにしている。	町内会及び事業所の防災訓練に互いに参加し合い、親睦・協力関係を深めることを望みます。更に、災害時にはホームが地域の高齢者の介護や避難先にもなる専門的機関であることをPRし、地域との連携を深めていくことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアル等を活用し職員に周知徹底をしている。	入社時研修で人権尊重を基本に接遇に関する研修を行っている。ケア委員会ではカンファレンス時にトイレや浴室のカーテン・ドアの開閉への配慮や小さな声かけ誘導などプライバシーに配慮することを確認している。職員から誓約書を取り守秘義務を徹底している。法人による個人情報保護に関するテストを年1回実施し注意を喚起している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自主性を尊重している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人それぞれのペースで決定実行してもらう。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を活用している。レクリエーションなどでお化粧品やマニキュアを実施している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	能力、心身状況を踏まえお願いしている。	運営法人からメニューが送付され、職員が毎週交代でホームに合うよう見直し、献立委員会がチェックをしている。食材の魚や野菜は業者が配達し、他は職員が購入し、調理を行っている。食事の準備や片づけ、ごみの処分など利用者が積極的に手伝っている。誕生会はケーキと出前寿司で祝い、行事食では餃子・松茸・鍋パーティをしたり、月1回近隣の回転寿司やラーメン店などの外食店に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録しバランスよく提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じて支援している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時の声かけにて排尿パターンを掴んで、できるだけトイレにて排泄できるよう支援している。	介護記録（ケア記録）で利用者個人の排泄パターンを把握し誘導しており、常に気持ちの良い状態を維持するよう努めている。自立している方が半数で、現在夜間を除いてオムツ利用者はいない。リハビリパンツを使用していた方が、布パンツへ改善した事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度の運動と適切な水分量にて管理している。未排便時、冷たい牛乳やブルーベリージュースにて対応している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴者は曜日ごとに決まっている。または臨機応変に対応している。	入浴は週3回が基本で、希望すればいつでも利用できる。時間帯は午前と午後に行い、同性介助も可能である。入浴したがない方へは時間差の声かけで、気分によって入浴し、好まない時は清拭で対応している。入浴剤や菖蒲湯、ゆず湯を楽しみ、職員とゆっくりと語り合い、リラックスしてもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない程度に休む時間は制限しない。		
47		服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局にて管理、把握してもらい職員は間違えのないようにセッティング時薬情と見比べ、服薬時には名前を読み上げ他職員と二重チェックしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味嗜好に合わせて支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は日常業務。外出は毎月予定をたて実行している。	散歩は毎日午前と午後に駅周辺を1周している。時間は約30分で同じペースで歩く人、一人歩きの人、車いすで行く人と3グループの構成で行っている。どうしても行きたくない人は、移動パン屋さんが来る日に玄関まで連れ出している。介護タクシーを使い水族館や花見に行っている。近くの神社の初詣や洋品店での買い物は車椅子や徒歩で出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動パン屋やコンビニにて財布から取り出し会計できる機会を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙に関しては制限ない。電話に関しては家族に意向により制限あり。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や皆で作った習字を飾ったりし落ち着ける空間を目指している。それらの実行記録として写真をユニットに飾っている。	部屋数も整い、共有空間も広くゆとりがある。オープンキッチンからは、明るく開放的なリビングでの利用者の様子が一目で把握できる。白い壁には写真委員会撮影の水族館訪問やフラワーアレンジメント等の楽しい日常活動の写真が貼ってある。書道や折り紙、共同制作品など利用者の作品が掲示されており、ホーム全体に明るい落ち着いた雰囲気漂っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室を常に開放している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの品物を持ち込んで落ち着いて過ごせる環境となっている。	居室の入り口には手作りの表札で管理者のデッサンによる似顔絵があったり、「入らないでください」の張り紙のあるドアもある。クロ・ゼット、照明器具、エアコン、カーテンは事業所で常設しており、食料や貴重品の持ち込みを除き、テレビ、時計、整理ダンス、家族の写真、化粧品セットなど自由に持ち込み、家族と相談しながらマイルームを作っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人でトイレと認識できるように札を掛けたり居室に名札を付けている。		

平成 25 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493000119	事業の開始年月日	平成21年10月1日
		指定年月日	平成21年10月1日
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター大和桜森		
所在地	(〒 242-0028) 神奈川県大和市桜森2-26-4		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日	平成25年9月18日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりの生活歴、趣味、嗜好を尊重し自立に向けた支援と、事故なく安心・安全で笑顔の絶えないホームを目指しております。
カラオケや大正琴ボランティアなどの外部からの支援も活用し、習字、華道などのスタッフの得意な趣味も取り入れ、スタッフも楽しみながら身体機能面・精神面からもアプローチしております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター大和桜森
ユニット名	緑の郷

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念をユニットの目の入る場所に設置。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや、地域のボランティア、散歩等で近所との交流を図っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に一度開放し近隣の方に見学を対応している。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	開催していない。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に一度GH連絡会にて参加交流している。月に二回メールにて空き状況を担当者に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム会議にて研修を行いサービスの向上をはかっている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議にて研修を行いサービスの向上をはかっている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議にて研修を行いサービスの向上をはかっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	読み合わせをして疑問点のないよう説明を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置し利用者の意見を反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一ホーム会議とユニット会議を行っている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適切な労働時間を個人面談にて決定している。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部外部の研修に積極的に参加することでスキルアップを図っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	2ヶ月に一度の大和市のGH管理者会議に出席している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員、ケアマネ、管理者それぞれの立場から相談事を伺っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的な家族会、家族参加のイベント時に意見交換し、個別にも相談している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを実施し、出来る限りご家族ご本人の不安を取り除く心がけをしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段のコミュニケーションに心がけ尊厳を守り支援している。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な家族会、家族参加のイベント時に意見交換し、個別にも相談している。定期的な家族会、		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	穏やかな生活ができるよう制限なく来訪者を受け入れている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体を見ながら満遍なく介護に従事する事に注意している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの行事などに気軽に参加できるように声かけをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	カンファレンスにて本人の意向、ご家族の意向をふまえ話し合っている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴を各機関より聞き取る。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存能力、心身状態、健康状態等の情報を共有しサービスを提供している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期計画毎のモニタリング、カンファレンスを介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録と職員の気付きにより計画の見直し実践に生かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活用していない。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と本人の了承を得て往診対応している。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の看護師、訪問看護師に24時間連絡できる体制である。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医と入院先医と密に連絡をとるための情報交換をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご家族、往診医、看護師と話し合い決定している。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ほぼ全員普通救命の講習を受けている。</p>	/	/
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に二回の避難訓練を実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアル等を活用し職員に周知徹底をしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自主性を尊重している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人それぞれのペースで決定実行してもらう。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を活用している。レクリエーションなどでお化粧品やマニキュアを実施している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力、心身状況を踏まえお願いしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録しバランスよく提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じて支援している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時の声かけにて排尿パターンを掴んで、できるだけトイレにて排泄できるよう支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度の運動と適切な水分量にて管理している。未排便時、冷たい牛乳やプルーンジュースにて対応している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴者は曜日ごとに決まっている。または臨機応変に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない程度に休む時間は制限しない。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局にて管理、把握してもらい職員は間違えないようにセッティング時薬情と見比べ、服薬時には名前を読み上げ他職員と二重チェックしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味嗜好に合わせ支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は日常業務。外出は毎月予定をたて実行している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動パン屋やコンビニにて財布から取り出し会計できる機会を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙に関しては制限ない。電話に関しては家族に意向により制限あり。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や皆で作った習字を飾ったりし落ち着ける空間を目指している。それらの実行記録として写真をユニットに飾っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室を常に開放している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの品物を持ち込んで落ち着いて過ごせる環境となっている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人でトイレと認識できるように札を掛けたり居室に名札をかけている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニキウアセンター大和桜森

作成日 H25.11.28

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議の未開催。	2ヶ月に1度の開催	各方面への事前連絡 毎月3日金曜日開催の徹底。周知。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。